

■(晴川院)狩野養信
かのうおさのぶ
ポルト来航・1796＝

画家。木挽町家狩野派9代目の絵師。多作で狩野派最後の名手と言われる。

伊川院狩野栄信の長男として江戸で生まれる。通称庄三郎。

本居宣長没・1801＝5歳：弟(のちに「古画備考」を著した朝岡興禎)が誕生。

青洲麻醉手術1805＝9歳：

けつ刀報復・1806＝10歳：おそらく父栄信の指導で、**最初の模写**、以後、**模写に尋常ならざる情熱を注ぎ**、

・・・・・・1810＝14歳：**初めて江戸城に出仕**、その前日から、「公用日記」をつけ始め、
しばしば父親から観能会などの公務を押しつけられたようである。

浮世床・・・・1813＝17歳：將軍徳川家慶に長男竹千代が生まれ、「たけ」の音が同じでは失礼と「おさのぶ」に読み改める。
黒住教・・・・1814＝18歳：さらに、この竹千代が死去して玉樹院と呼ばれたため、それまでの号玉川を「晴川」とした。

水野忠成老中1818＝22歳：

群書類従完結1819＝23歳：***法眼になり**、

・・・・・・1820＝24歳：**水戸徳川家の依頼で**、沈南蘋作「群鹿群鶴図屏風」を模写。

シボ朴来日・1823＝27歳：

・・・・・・1826＝30歳：**徳川家斉の17女文姫が讃岐高松藩の松平頼胤に嫁す際の御用作品「源氏物語図屏風」(重要文化財)**。

日本外史・・・・1827＝31歳：「四季花鳥図屏風」、

シボ朴事件・1828＝32歳：父の死を受けて***家督を相続し**、

鼠小僧磔・・・・1832＝36歳：「源氏物語浜松図両面屏風」、

高島砲術・・・・1834＝38歳：**法印に叙される**。

滑稽+人情本 1835＝39歳：この年、木挽町狩野家の邸内で、高弟養邦の子橋本雅邦が誕生、のちそのまま弟子となる。

大塩平八郎乱1837＝41歳：

適塾ホヰン・1838＝42歳：翌年にかけて、***江戸城西の丸御殿の障壁画再建を総指揮**、

天保改革始・1841＝45歳：**鷹司政通の養女鷹司任子が第13代將軍徳川家定に與入れする際の支度品としてに描いた「源氏物語子図屏風」**、裏に「若松図」が描かれている。

天保改革終・1844＝48歳：以後3年、**本丸御殿の障壁画再建の総指揮を執った**。

阿部正弘首座1845＝49歳：おそらく、**生来病弱な上に**、相次ぐ激務による疲れで、

孝明天皇・・・・1846＝50歳：***息子雅信と共署名の「七十一番職人歌合」二十四番を最後に**、死の12日前まで当時細川家にあった蒙古襲来
絵詞を模写、その情熱は衰えないまま、没した。

模写は、東京国立博物館のものだけでも、絵巻150巻、名画500点以上にも及ぶが江戸中期以降、狩野派が
独占していた絵画技法が外部に漏れて行ったのに対抗して、狩野派を守ろうとしたと考えられる。「公用日
記」は、没する前日までの36年間にわたり、奥絵師の日常や仕事の詳細を伝えるものとして貴重である。
作品はほかに、「鷹狩図屏風」「胡蝶船遊之図」「源氏物語絵合・胡蝶図屏風」「春秋高隠図」、將軍家斉の第十九
女盛姫が佐賀藩の鍋島直正に嫁ぐ際の婚礼調度の一つとして制作された「四季耕作図屏風」、「西王母瀧図」
浪瀧桜瀧紅葉瀧図」「楼閣山水図」「松平定信像」など。